Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-06

第7章 平成22～24年度特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業を定着・普及させる活動

板垣, 貴志

(Citation)
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業,13(平成26年度事業報告書):42-43

(Issue Date)
2015-03-31

(Resource Type)
report part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81009342

― 第7章 ―

平成22～24年度特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業を定着・普及させる活動

(1) まちづくり地域歴史遺産活用講座

歴史文化を地域づくりに活用し、次世代に残していくためには、その担い手となる人材の育成が必須である。このため2010～2012年度の特別研究プロジェクトでは、その人材育成の取り組みの一環として、市民向けに、地域歴史遺産をまちづくりに活用するための基礎的な知識や技術を学ぶ「まちづくり地域歴史遺産活用講座」(以下、活用講座)のプログラム開発をおこなった。3年間で計8回の試行プログラムをおこない、プログラムの内容がほぼ固まったため、今年度からはそれにそって原則として年2回(学内1回、学外1回)、活用講座を開催することとなった。

今年度は学内での開催については、人文学研究科の公開講座としておこなった。

学外については、明石市において開催した。明石市においては、現在市史編纂事業がおこなわれており、市民参加を視野に入れた地域編の編纂も計画されているが、本講座はそのための市民の関心を喚起する意図もあって企画された。それぞれの内容については下記のとおり。

①学内

日程：2012年10月18日(土)・19日(日)
場所：神戸大学文学部B棟小ホール
主催：人文学研究科地域連携センター
共催：兵庫県教育委員会
後援：神戸市教育委員会・灘区

・10月18日(土)

10:00　開講挨拶・趣旨説明・事務連絡
10:10　地域歴史遺産とまちづくり(奥村弘)
11:20　地域歴史遺産活用事例の紹介
(坂江渉・大槻守)
13:10　参加者自己紹介
13:30　地域の歴史の見方・近現代(河島真)
14:40　地域の歴史の見方・古代(坂江渉)
15:50　地域の歴史の見方・中世(村井良介)

・10月19日(日)

10:00　地域の歴史の見方・近世(木村修二)
11:10　災害から地域史料を守る(加藤明恵)
13:20　歴史資料取り扱いの基礎I
(板垣貴志・加藤明恵)
14:30　歴史資料取り扱いの基礎II
(前田結城・加藤明恵)
15:30　アンケート記入
16:00　意見交換会
16:50　修了書授与・閉講挨拶

②学外

日程：3月21日(土)・22日(日)
場所：明石市立文化博物館
主催：明石市
協力：人文学研究科地域連携センター

・3月21日(土)

10：00　開講挨拶・趣旨説明・事務連絡
10：10　地域歴史遺産とまちづくり(奥村弘)
11：20　地域歴史遺産活用事例の紹介
(村井良介・大村敬通)
13：10　参加者自己紹介
13：30　地域の歴史の見方・近現代(河島真)
14：40　地域の歴史の見方・古代(古市晃)
15：50　地域の歴史の見方・中世(市沢哲)

・3月22日(日)

10：00　地域の歴史の見方・近世(木村修二)
11：10　災害から地域史料を守る(加藤明恵)
13：20　歴史資料取り扱いの基礎Ⅰ(村井良介)
14：30　歴史資料取り扱いの基礎Ⅱ(木村修二)
15：30　アンケート記入
16：00　意見交換会
16：50　修了書授与・閉講挨拶
(文責・村井良介)

(2) 古文書解読初級講座

10月20日から11月17日にかけて計4回の日程で神戸大学にて開催した。これまでの「まちづく

り地域歴史遺産活用講座」の受講生に案内し、7名の参加者があった。講師は河島裕子氏（神戸大学非常勤講師）が務め、おおむね好評であった。

（文責・板垣貴志）

― 第8章 ―
神戸大学附属図書館との連携

(1) 地域資料調査

昨年度に引き続き、人文学研究科院生で日本中世史専攻の山本康司君に文書の整理作業に当たってもらった。昨年度までに完了していた「摂津国八部郡花熊村村上家文書」のデータベースは、昨年度末に同館 HP 上で公開された。今年度は、「摂津国兎原郡篠原村若林（嘉茂治）家文書」の整理を進めてきた。全点整理は完了しなかったので、次年度には完了し、データの公開を進めたいと考えている。

1 月 14 日に図書館関係者と当センター関係者とで事業をめぐる協議を行い、今年度の活動報告および、次年度の活動方針を協議した。次年度も山本君による整理作業を継続するが、10 月～ 11 月頃に同館において附属図書館所蔵文書を使用した展示会開催を目指すことで合意し、そのために同館職員へのレクチャーを目的とした研修会を月 1 回程度、山本君を講師として実施することで合意した。

（文責　木村修二）

(2) 震災資料の調査・活用

本学の震災復興支援・災害科学研究推進室からのサポート経費に基づき、災害資料学の実践的研究を附属図書館とともに行なった。これは東日本大震災被災地の各図書館による震災資料の収集・保存などの活動支援を含むものである。

阪神・淡路大震災から 20 年をむかえる本年度は、附属図書館の資料展「つたえる・つながる～阪神・淡路大震災 20 年」の第 2 期（12 月 24 日～ 2015 年 1 月 29 日、於社会科学系図書館）の併設展示として、学生によるパネル展「記憶から歴史へ――阪神・淡路大震災を知らない世代の取り組み」を開催した。これは日本史演習（奥村弘）を受講する学部生が主体となって制作した展示であり、佐々木和子・吉川圭太・兒玉州平らが協力した。展示制作においては、学生が 3 グループに分かれて三宮・長田・六甲道の歴史と震災被害、復旧について学習し、附属図書館震災文庫に提供されている写真資料を用いて展示パネルを作製した。

また、1 月 23 日には「第 4 回被災地図書館との情報交換会」を神戸大学附属図書館フロンティア館で開催した。この情報交換会では、岩手・宮城の県立図書館及び大学図書館、国立国会図書館、長岡市立中央図書館文書資料室などからの参加を得て、阪神・淡路大震災の震災資料所蔵機関と意見交換を実施した。情報交換会終了後には、附属図書館社会系図書館・震災文庫で開催中の企画展示を見学した。また、同日の午前中には長岡市立中央図書館文書資料室の田中洋史氏を講師として、「東日本大震災に関する震災資料整理ワークショップ」を開催した。

これらの内容と成果に関しては、第 3 回国連防災世界会議においてポスター展示を行なった（3 月 15 日、於仙台市情報・産業プラザ）。

（文責・吉川圭太）